

行動計画テーマ1関連

エネルギーの使い方に着目した 高齢者等への生活支援サービスの実現

～地域特性等を踏まえた、地域の安全・安心確保のための環境づくり～

テーマ1:(1)計画の全体概要

■ 目的

地域特性等を踏まえた、地域の安全・安心確保のための環境づくり

■ 前提

居住者のエネルギー消費を把握するためのスマートメーター、HEMS等の環境が整備されていること

■ 展開する主な個別事業

市民のライフスタイルニーズ
地域活動実態調査

- ・環境適応型スタイル、健康や安全・安心な暮らしに対する市民ニーズの把握
- ・市内各地区における地域コミュニティの実態調査

高齢者等の健康活動と省エネ活動を通じた生きがいづくりのためのプラン策定

- ・高齢者の健康活動やエネルギー利用に関するデータを活用した地域での見守り活動効率化に向けたプラン策定

各家庭におけるヘルスケアデータ管理
各家庭のHEMSと一体化した地域の
高齢者等見守り支援の仕組み構築※

- ・高齢者向け地域型エクササイズメニューの開発およびデータ管理
- ・HEMS¹⁾やスマートメーター²⁾から居住者のエネルギー消費を把握し異常時には近隣の協力者が見守りにあたる仕組みの構築

安全・安心スマート拠点を
実現するための仕組みづくり※

- ・既存施設を活用した、環境にやさしく効率的かつ低コストで可能な“地区コミュニティマネジメント”拠点の形成

総合マネジメントセンター機能づくり※

- ・市内各拠点をつなぎ、市全体で見守り、マネジメント、活性化を実現するための総合マネジメントセンターを構築

注:1)HEMS:ホーム・エネルギー・マネジメント・システム。家庭内の消費電力全体を管理するシステム。

2)スマートメーター:通信機能などを備えた電力計測装置。

※印の項目については、具体的な進め方について後述する

テーマ1：(2)テーマに係る背景

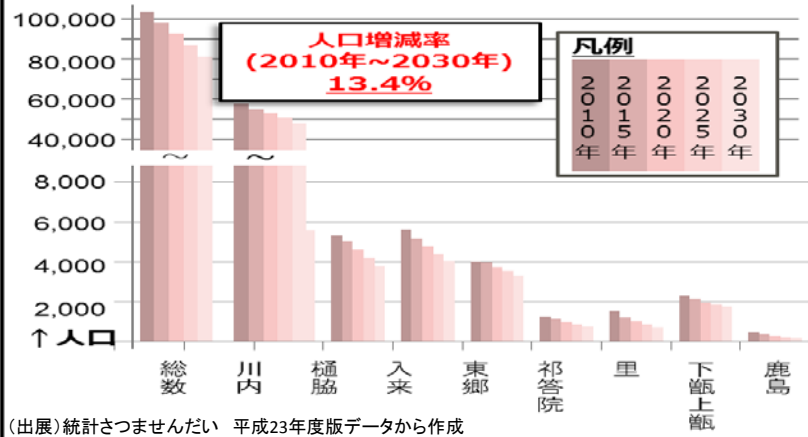
薩摩川内市の高齢化と地域特性

○市内ではゴールド集落を中心に人口減少・高齢化が進み高齢者世帯やその予備軍の割合も高まっている。
また、高齢化率は自治会(地区)毎で異なり、特に高い自治会では90%超に至る。

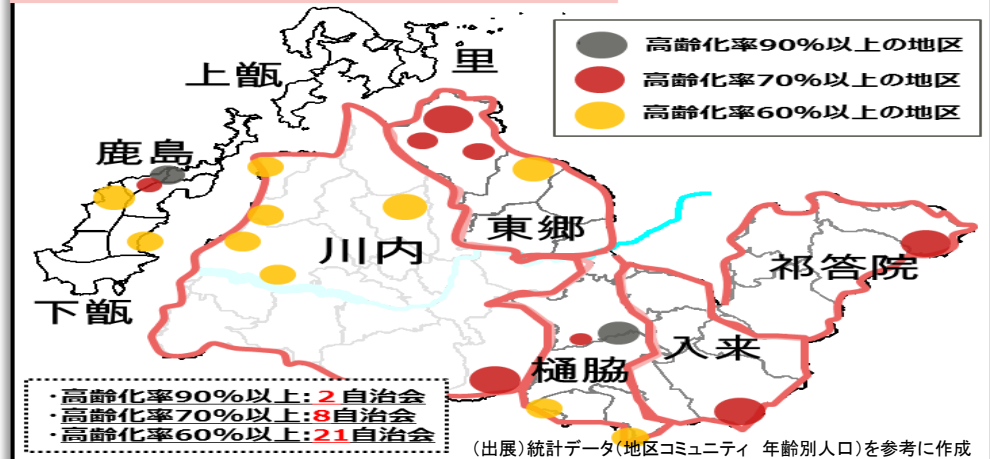
薩摩川内市内ゴールド集落におけるアンケート調査(抜粋)

○ゴールド集落を中心に人口減少・高齢化が進む中、今後の機能維持に対して市民からの不安の声も多い。
一方で、楽しみながら健康を維持し、安全な暮らしを送ることへのニーズも高まっており、地域コミュニティが衰退する中でも市民全体で効率的に見守り体制を維持し、高齢者が生きがいを持ってコミュニティ活動に参加できる仕組みづくりが求められている。

■ 地区別人口の将来見通し

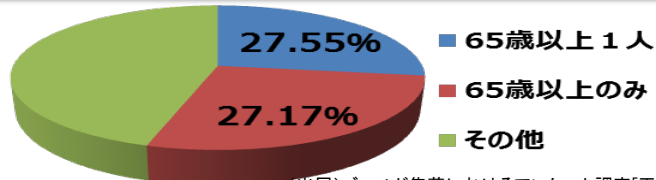


■ 高齢化率上位の自治会



■ アンケート調査(平成21年度) ①

Q.「あなたの自治会(集落)の現状をお聞かせください」
(81自治会、自治会加入世帯数：2212世帯)



■ アンケート調査(平成21年度) ②

(出展)ゴールド集落におけるアンケート調査[平成21年度]

Q.「活力と豊かさを感じる地域づくり(地域力創造)」を実現するために**重要だと思う**取組みは何だと思いますか。

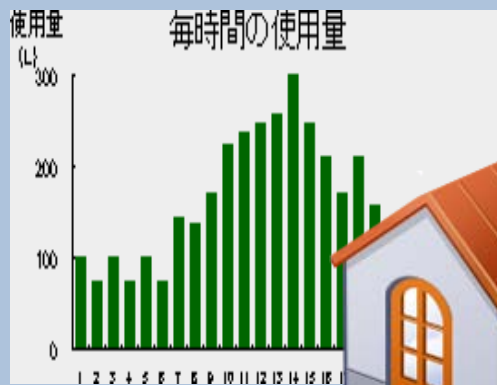
- 1位： 高齢者が住み慣れた地域において安心して生活が送れるよう地域全体による支援(見守りなど)体制の充実を図る(62.5%)
- 2位： 地域住民の生活を支えるためのバス路線の充実や代替交通の確保に努める(48.1%)
- 3位： 無医地区対策や救急医療体制などの保険医療サービスの充実を図る(33.5%)
- 4位： 優良企業の誘致を積極的に進め、若者の雇用の場を創出する(29.3%)
- 5位： 地元農産物を活用した特産品の開発や高齢者への介護・福祉サービスの提供など、その活動の利益を地域に還元する事業(コミュニティ・ビジネス)を推進する(29.2%)

テーマ1：(3)モデル全体イメージ

○近隣住民と一体となった効率的な高齢者の見守りだけでなく、将来的には地域のコミュニティ拠点を中心として、見守り支援や医療・防犯・防災など地域のサービスを連携させることで、安全・安心な生活を維持する市全体のネットワークを形成。

【各家庭】

健康情報、エネルギー利用
状況を通じた見守り支援の仕組み



地区コミュニティセンター

【各地域】

生活拠点を中心に地域力を
結集した安全・安心ネットワーク



警察



自治会・NPO

医療



消防



高齢者世帯

子育て世帯

テーマ1：(4) 具体的事業展開イメージ①

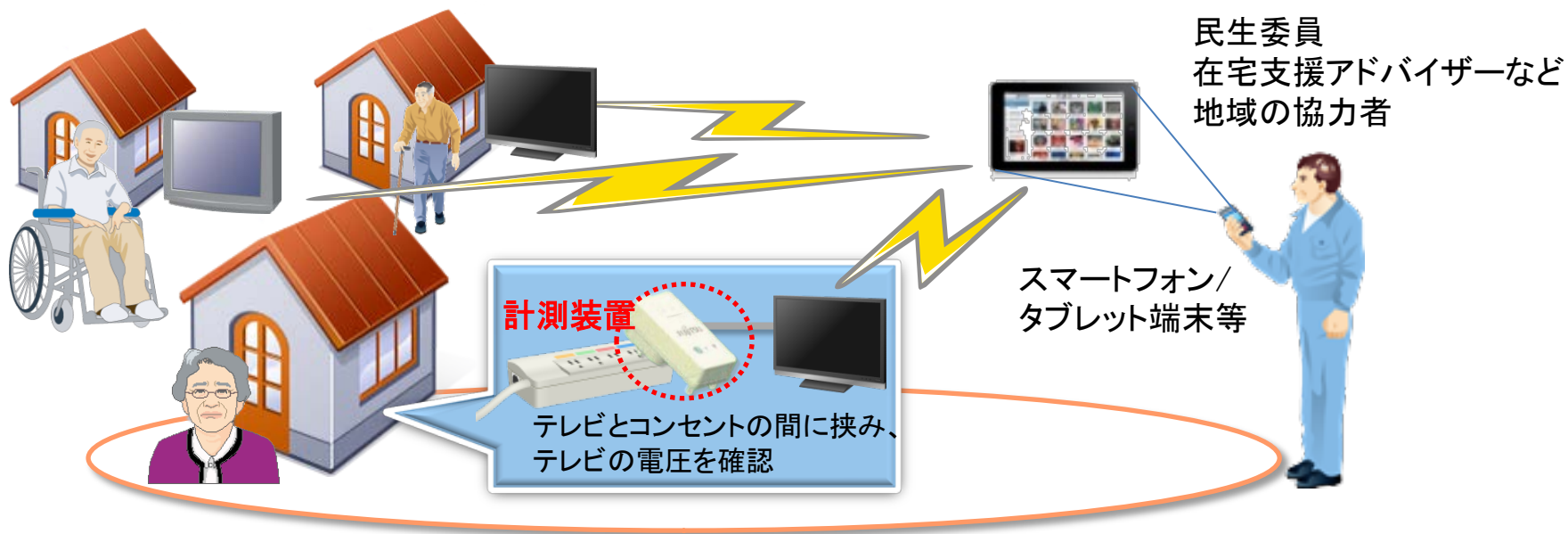
簡易見守りの仕組み

- 高齢者世帯の家電製品の電力利用状況を計測し、一定期間電気が不使用や使い方が不自然の場合には訪問により状況を確認することで、利用者のプライバシーを守りながら簡易な見守り支援を実現。
家電製品とコンセントの間に計測装置を挟むことで家電製品の利用状況がチェックでき、地域(近隣)協力者が定期的に家の前からスマートフォンなど通信端末を使い、各世帯の見守りを実施。

※計測装置では電力利用状況の他、温度や湿度をセンサーで計測可。

導入のポイント

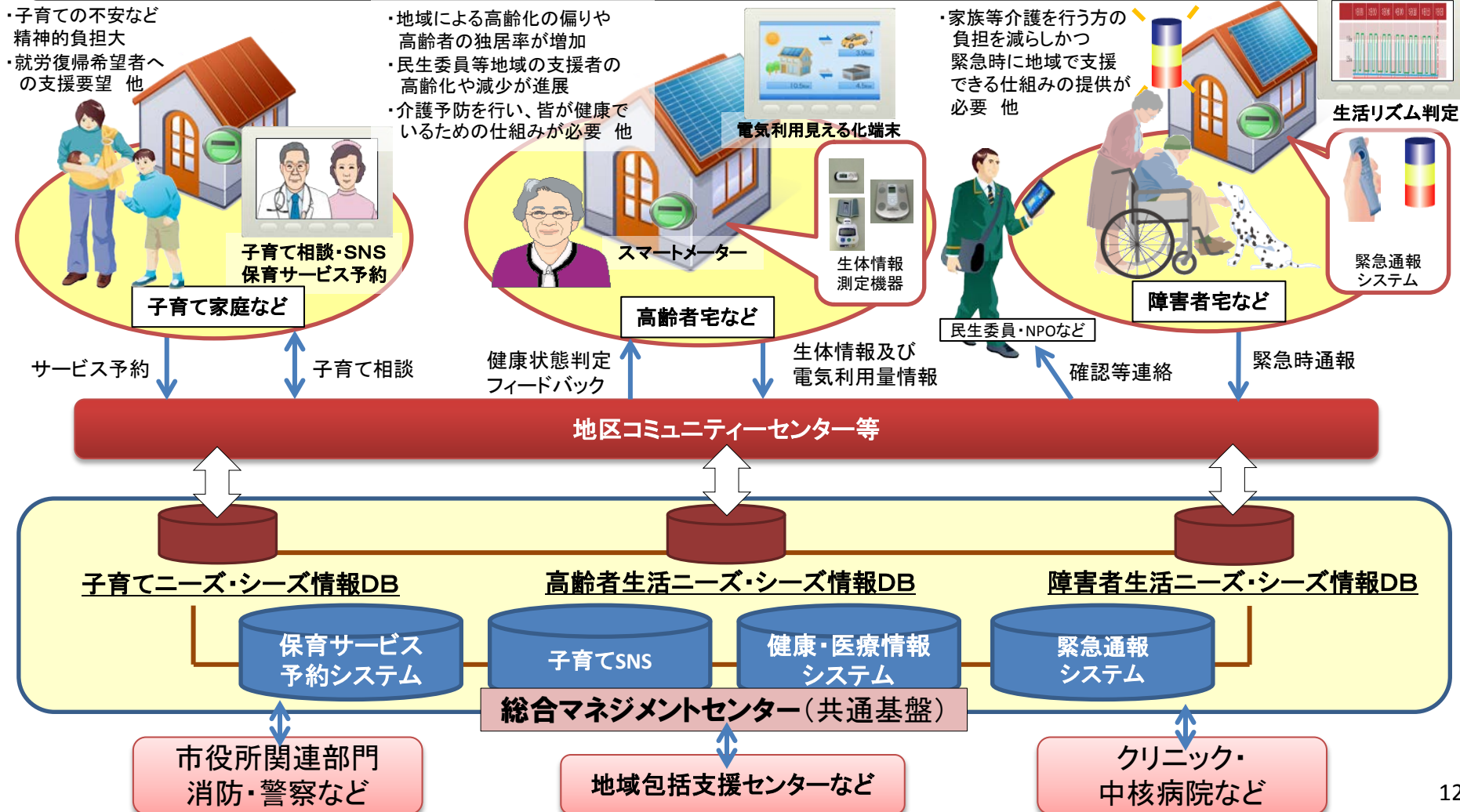
- ①機器とコンセントの間に計測装置を挟むだけの簡単な設置。
- ②平常時はスマートフォンなどを利用し外部からプライベートを邪魔せずに安全確認ができる。
- ③地域近隣者の見守り体制を活用することで異常時の駆けつけ時間の短縮が可能。



テーマ1: (4) 具体的事業展開イメージ②

将来にわたって皆が無理なく健康で生き生きと安全・安心に暮らせる仕組み

- 地域の高齢者や障害者家庭の見守りを担う民生委員の高齢化等も進んでいく状況を踏まえ、ICTを活用した健康活動の推進や各種情報端末等を活用した支援者の負担軽減を行う。
- 各地域内の子育て家庭の育児支援や高齢者、障害者の見守り支援の仕組みを同じ基盤で提供することにより、導入コストの低減や運用効率を上げる。



テーマ1：(5)ロードマップ

短期

中期

長期

事前調査・プラン策定

市民ライフスタイルニーズ詳細調査

地区コミュニティ実態調査

生きがいつくりのプラン策定

仕組み構築

計測装置による簡易な見守り支援の仕組み作り

各家庭のヘルスケアデータ管理／HEMS連携による地域の見守り支援等の仕組み作り

拠点整備

安全・安心スマート拠点の整備

総合マネジメントセンター機能作り／整備

小規模
試験導入
(高齢独居世帯)

高齢者世帯
以外へも展開

地区コミュニティへ
面的に拡大

市全域へ拡大